Race Report

初優勝！　#81

3 階級制覇に一歩前進　#110

今回はこちらが表彰台　#62

#39 チームメイトは 4 位

途中クーリングブレイクを導入

「１＋２Ｃ」クラス（1500cc 以下の NA 車と、1200cc 以下の過給機付き車、1501cc～1850cc の NA 後輪駆動車のクローズドクラス）

「いやはや暑い！！」もうそんな言葉しか出てこない今年の夏。連日 35℃以上の猛暑日が続き、40℃超えがニュースになる。
そんななか「GT 耐久東海シリーズ 2018」の第 2 戦が、スパ西浦モーターパークにて開催された。海沿いの蒲郡は名古屋などの都市部と比較すれば、まだ気温は低いものの朝から真夏の太陽が照りつける。さあこの暑さに負けないレースが始まるぞ。

■予選

1+2C クラスは今回も大盛況の 12 台、1 台出走となった EN クラスと合わせて紹介していこう。
予選トップは#81「眠らぬ猫ロードスター」1’03.591、とうとう PP 奪取。開幕戦では上位走行中にマシントラブルでリタイヤを喫しただけに、今回は奮起。
2 位#39「COCKPIT＆CLN ヴィッツ」1’04.376、開幕戦では 2 位、今回の予選も自己最高位更新で意気上がる。
3 位#110「アライメント浜松スイフト」1’04.381、開幕ダッシュで一気にチャンピオン街道を走るか。
4 位#70「ウエリースシビック GT」1’04.866、インターバルの間にはスプリングを固めにするなどモデファイを施してきた効果か、まずまず好位置につける。
5 位#62「ワコーズ☆CLN ヴィッツ」1’05.712、こちらはタワーバーを入れるなどバランスをリセッティングして望む。開幕戦は 4 位、当然狙うはそれ以上。
6 位#222「A.R.C.Kii Fit」1’06.434、こちらも脚を硬い方にアジャスト。
7 位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」1’07.440、唯一のリッターマシン、開幕戦では大健闘の 3 位表彰台。今回の変更点については「ストレスで･･･」増えたのか？減ったのか？
8 位#870「MSCJ 東海マーチ」1’07.682、タイヤを細くしたと。さてその効果は。
9 位#50「MSCJ 奈良ロードスター」1’09.083、今季初出場、一言「暑い！！」以上
10 位#67「みかんちゃんデミオ」1’09.580、11 位#9「しんかい 2500 スイフト」1’10.147、本来の力からすると予選は不本意か。12 位#6「MEBIUS スイフトスポーツ」1’11.580、久しぶりのメビウスチーム、今レース 3 台目の 81 スイスポ。

EN クラスは#79「ARCN Vitz RS」1’08.977、今レースは 1 台のみの EN クラスだが、自らの目標に向かって走る。

■序盤

序盤のスティントトップにたつのは#110「アライメント浜松スイフト」、17周目にはこの日最速の 1’04.116 を記録するなど快調に飛ばす。2 位には#81「眠らぬ猫ロードスター」こちらは 1’04.528 で食い下がる。3 位は#62「ワコーズ☆CLN ヴィッツ」、4 位にはチームメイトの#39「COCKPIT＆CLN ヴィッツ」がつけて上位勢を形作る。
中段は 5 位#222「A.R.C.Kii Fit」、6 位#70「ウエリースシビック GT」、7 位#870「MSCJ 東海マーチ」、8 位#67「みかんちゃんデミオ」、9 位 46「ボーイズヴィッツアンビシャス」と続く。
さらに 10 位#50「MSCJ 奈良ロードスター」、11 位#9「しんかい 2500 スイフト」というオーダーだが、ここでスタート早々のアクシデント発生、#6「MEBIUS スイフトスポーツ」がターン 2 でグラベルに飛び出し、SC ラン。
まだ義務ピット解禁前ということもあり大きな混乱には至らず。

EN クラスの#79「ARCN Vitz RS」は全体でもトップテン圏内の 8 位を走行し、なかなかに好調をキープ。

©2008-2018　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■中盤

間もなく 1 時間というところで、#6「MEBIUS スイフトスポーツ」がターン 3 の先で大きく姿勢を乱しコースアウト、幸いにもドライバーは事なきを得たが車両回収のために赤旗が提示され、一旦レースがストップ。

この時点では気温は 30℃を大きく超えているとみられたため、サッカーなどでも行われているクーリングブレイクを導入、ピットおよび、メインストレート上で停止しているマシンのクルーたちが、水分補給と、窓を開けて風を送るなどの熱中症対策を行った。
その後再スタートも含め、熱中症と思われる様子はなく、レースは無事再開。

折返し時点でトップは#81「眠らぬ猫ロードスター」、それを追うのは#110「アライメント浜松スイフト」、#62「ワコーズ☆CLN ヴィッツ」といったところ。
中段はリッターヴィッツの#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、#39「COCKPIT＆CLN ヴィッツ」とヴィッツ勢が続き#9「しんかい 2500 スイフト」といった感じ。
ピット戦略の関係で#50「MSCJ 奈良ロードスター」も上位に顔をだすなど展開が素早い。
更に続く#222「A.R.C.Kii Fit」、#870「MSCJ 東海マーチ」、#67「みかんちゃんデミオ」もまだまだ上位進出を狙う。
#70「ウエリースシビック GT」は、少し周回数が伸びてこないのが心配。今回のドライバーはラジコン全日本戦にも出場経験のあるメンバーとのこと。ここからの挽回に注目。

EN クラスの#79「ARCN Vitz RS」はここでも快走全体 8 位をキープ。

最下位から見事挽回　#70

陽光に黄色が映える　#22

■終盤

ゴールまでは残り 1 時間、#81「眠らぬ猫ロードスター」だが、#110「アライメント浜松スイフト」の追い上げが本格化。逃げる#81「眠らぬ猫ロードスター」、開幕戦ではリタイヤを喫しただけに、今回への思いは強い。
3 位#62「ワコーズ☆CLN ヴィッツ」とここまでが表彰台圏内。
4 位 50「MSCJ 奈良ロードスター」、5 位#39「COCKPIT＆CLN ヴィッツ」と続く。
6 位以下は#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、#67「みかんちゃんデミオ」、盛り返してきた#70「ウエリースシビック GT」、#222「A.R.C.Kii Fit」、#9「しんかい 2500 スイフト」とここまでがポイント圏内、更に僅差で#870「MSCJ 東海マーチ」と多様な車種が並ぶ 1+2 クラスならではの光景。

EN クラスの#79「ARCN Vitz RS」は少しペースは落ちたようだが、なんとか完走までは持っていきたいところ。

今回は 7 位　#46

今回は 3 台の HT81 スイスポが参加

©2008-2018　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■最終結果

ガンガン追い上げた#110「アライメント浜松スイフト」だが、わずかに及ばず 2 位、勝ったのは#81「眠らぬ猫ロードスター」、コンマ 371 差で初優勝。
3 位は#62「ワコーズ☆CLN ヴィッツ」がチームメイトの#39「COCKPIT＆CLN ヴィッツ」を抑え表彰台に上がる、ここは開幕戦と入れ替わった格好だ。
5 位しぶとく追い上げた 70「ウエリースシビック GT」、ラジコン全日本ドライバーの集中力は伊達ではない。6 位#222「A.R.C.Kii Fit」とホンダ勢が続く。
7 位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、8 位#9「しんかい 2500 スイフト」開幕戦では惜しくもポイントには届かなかったが、今回はしっかりゲット。
9 位#50「MSCJ 奈良ロードスター」途中ボードの上位に顔を出すなど好調をキープしたが、終盤のスピンなどが少しもったいなかったか。10 位#870「MSCJ 東海マーチ」までがポイント。
11 位となった#67「みかんちゃんデミオ」は、最後までピットインを遅らせる作戦に出たが、半周届かず義務ピット時間が終了。残念ながら完走にはならず。

EN クラスは終盤スローダウンするなど苦労したが、しっかり完走、自分たちのレースに勝った！

中盤までは健闘　#50

ここまでがポイント獲得　#870

義務ピット消化できず完走ならず　#67

コースアウトでリタイヤ　#6

EN クラス優勝！　#79

©2008-2018　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

初 PP だ！！

■総評

本当に暑い中で行われた第 2 戦、#110「アライメント浜松スイフト」は 2 連勝とは行かなかったがポイントは 35P まで伸ばしてランキングトップを堅持。伝説の 3 階級王者への道をまた一歩進めた。

その暑さだが、途中のブレイクなどもあり熱中症などになることもなくレースを終えられたことを、各チームの皆さんに感謝いたします。

12 台+EN クラス 1 台という多くの参加台数を集めた GT 耐久東海シリーズ、次戦は折返しとなる第 3 戦、まだまだ暑さが残るであろう 9 月、どんなアツい戦いが待ち受けているのか。

EN クラス

タテのタワーバーって初めて見ました！？

1+2C クラス

©2008-2018 GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

とうとう UE に行ったぜ！！　　#77

レースの上手さはさすが　　#106

殊勲賞だ 3 位表彰台　#4

予選の 1 並び　次回に期待　#1

「３Ｃ」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス）+「ＯＰ」クラス

開幕戦ではインポートカーのプジョー 106 が予選から素晴らしい走りを見せた。局面ごとにトップが変わるバトルを制して優勝、まずは 1 勝をものにした。
最後まで初優勝へ向かった FX のエンジンは、結局直らず･･･今回は無念欠場。
同じテンロククラスとしては 31 型スイスポが地元チームの手でエントリー、若手主体のフレッシュなチーム。さらに#4 のミュルサンヌロードスターがデフを 1800 の物に変えたことで、OP クラスとなった。#77 とのロードスター対決も楽しみ。
統合クラスのルールは、ピットストップハンデとして OP クラスマシンは一回のピットストップ時間が 30 秒長い（回数同じ 4 回）、今回は#106 のみ 3C クラス。

■予選

第 2 戦は 4 台の出走、予選トップは#106「D&M スパイクオート 106」(3C)1’04.233、開幕戦優勝の勢いをここでもつなげられるか。
2 位#4「ミュルサンヌ ロードスター」(OP)1’05.881、デフケースは 1800 のものにしたのに加え、オリジナルのクールシート＆ラジエーターウォータースプレーと熱対策はしっかりと施してきた。
3 位#77「ウエリース ロードスター GT」(OP)1’06.524、ショックのオーバーホールでリフレッシュ、狙うは悲願の初優勝、「やります！！」とクルーも宣言して臨む。
4 位#1「チーム犬（ワン）1」(OP)1’11.111、（おおっ 1 並び！、さすがですワン！）
マシンは 31 のスイスポ、OP クラス仕様だが、エンジン等は基本的にはノーマル+α で、まずはしっかりと乗りこなしていくことに主眼が置かれている。

■序盤

早めのピットインを仕掛けるのは#106「D&M スパイクオート 106」の得意の戦法。上位 3 台は走りのポテンシャルは拮抗しているのか、1 時間走ってもあまり差が開かない。#4「ミュルサンヌ ロードスター」、#77「ウエリース ロードスター GT」のロードスター対決を繰り広げつつ、三つ巴の戦いの様相。
ちなみにゴールドの#77 は NB、赤の#4 は NA 型だ。
#1「チームワン」の 31 スイスポも 10 秒前のラップを刻んでいる、まずはレースのリズムを掴んでいきたい。

■中盤

中盤で、#1「チームワン」が立体交差下でコースアウト、自走で戻れるが SC ラン。この間トップ争いは白熱、2 台のロードスターがバトル、現時点での先頭は#4「ミュルサンヌ ロードスター」だが、#106「D&M スパイクオート 106」までも実質同ラップの混戦が続く。
一旦は復帰した#1 だったが、コースアウトの影響か、オイルクーラーからのオイル漏れが発見されたため、大事を取ってリタイヤ、いやあ惜しい。

■終盤

レースは残り 1 時間、トップの#4「ミュルサンヌ ロードスター」、2 位の#77「ウエリース ロードスター GT」はどちらが勝っても初優勝、3 位からのうっちゃりを虎視眈々と狙う#106「D&M スパイクオート 106」の動きにも注意。
#77「ウエリース ロードスター GT」はこれまで 2 位は何度も獲ってきた、シルバーコレクターがトップを穫れるか。
暑い時間のアツいアツいジリジリとした時間が過ぎていく･･･

©2008-2018 GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■最終結果

三つ巴のバトルに決着、#77「ウエリース ロードスター GT」がチェッカー！2 位は逆転を狙った#106「D&M スパイクオート 106」、3 位は#4「ミュルサンヌ ロードスター」、3 位まではなんと同一周回、それも 40 秒ほどの差。いやいやこのクラスもアツい勝負でした。

■総評

このクラスでも勝ったロードスター、今日はロードスターディ。シリーズ争いでも#106「D&M スパイクオート 106」と、#77「ウエリース ロードスター GT」は同 P で並んだ。
レース中の最速タイムは 3 車ともに 05 秒台とポテンシャルが拮抗していた。ますますアツいシーズンとなるに違いない。
惜しかったのは#1「チームワン」、次回の挑戦を温かく迎えてくれるはずだ。

3C&OP クラス　　やりました！！

©2008-2018 GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.